

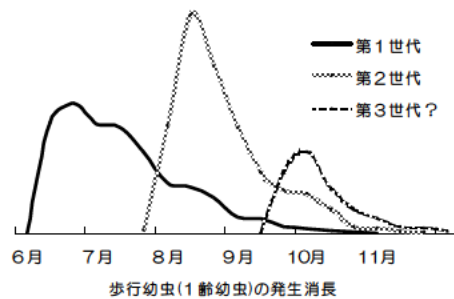
今月のトピックス 「アカマルカイガラムシについて」

1) どんな虫？

アカマルカイガラムシはカンキツ類の世界的に有名な大害虫です。日本では、これまで小笠原諸島、沖縄県、九州各県の暖かい地方で問題となる害虫でしたが、最近になって、愛媛県（1999 年）、三重県南部（2000 年）、静岡県西部（2005 年）で発生が確認されています。なお、三重県北中部のカンキツ園での発生は、現在確認していません。

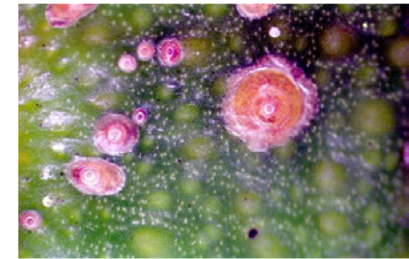
2) どんな生活史？

本県では雄蛹と雌成虫で越冬しています。7 月上旬、9 月上旬に多くの幼虫が発生しますが、秋にも幼虫が見られるので年 3 回の発生とされます。雌成虫は他のカイガラムシ類に比べて長命で、数ヶ月にわたって産卵を続けます。カンキツ類のほか、センダン、アカシア、アオギリ等でも発生します。



3) 被害の様子は？

枝に多数寄生すると、その枝が枯れることがあります。夏から秋に果実への寄生が急増して、果実の商品価値が著しく下がります。



果実が緑色の時はよく目立ちます 小さいのは幼虫、楕円は雄、一番大きいのは雌成虫



普通は枝で多発します

4) 防除は？

いったん発生した園地では、撲滅するのはかなり困難です。作業環境（園地条件、間伐、適正な剪定、作業道確保）を改善して、防除薬剤の効果を高めるようにしましょう。結果的に、薬剤散布量の削減、収穫労力削減等の全体的なコスト削減にもつながります。

三重県南部には 2 種類の土着の寄生蜂(コバチ類)が確認されました。アカマルカイガラムシ制御技術としての土着天敵の保護活用は今後の課題です。